

三翠化学

(題字は稲川先生)

第40号
平成6年3月31日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学コース内
電話/津(0592)32-1211
振替/名古屋9-59345
印刷/株式会社あるむ
TEL(052)332-0861 大8長谷川正一

平成6年度 三翠化学会総会開催のご案内

平成6年度

嶋田 協先生 退官祝賀会開催

(JR名古屋駅(桜通口)より
徒歩3分、中央郵便局向)



平成6年度三翠化学会総会を
下記のとおり開催させていただきます。
なお、本会総会にあわせ、
「嶋田 協先生退官記念講演会」が、
学外の先生ならびに本会会員を講師として、恒例の総会に先立ち開催されます。食糧問題から最先端の微生物学分野の話題まで幅広く興味深いお話しを聞かせていただけるものと存じます。長時間にはわたりませんが、是非ともこの記念講演会からご参加頂きますようお願い申し上げます。

1. 澤田寿々太郎氏(大4卒)
聖母女学院短大教授
「飽食を考える: グローバルな共生の視点から」
2. 大井 進氏 大阪府立大学理学部教授
「高温メタン菌について」
3. 荒井基夫氏 大阪府立大学農学部教授

記

日時 平成6年5月28日(日)10時～16時
場所 ホテルサンルート名古屋

奈良省三先生 北岸確三先生 勲三等旭日中綬章

奈良省三、北岸確三両先生に、誠にお目出たい事であり、は、昨春秋の叙勲で、共に勲三等旭日中綬章を受けられました。お慶び申し上げます。

農製研究OB会 奈良先生叙勲記念 祝賀会を開く

この機会に、奈良先生叙勲記念祝賀会の模様および、北岸先生のご近況について、寄稿頂きました。

いた。奈良先生ご夫妻をお迎えし、勲章・勲記を飾って、小宮の挨拶、前田巖氏(大1)の卒業専攻生を代表しての祝辞、卒業部長として臨席いただいた高橋先生の祝辞、奈良先生のお話しについて、福田映氏(大1)の音頭取りで乾杯してパーティーに入った。出席者は先生ご夫妻を囲んで59名、大学1回からの卒業生150余名の3分の1があつた。

進んでこれたことは、卒業生一同よく存知上げるところです。研究に対する真摯さもよく知られているところですが、研究のアイデアが、常に時代の一步先を歩いていた事はあまり知られていないと思えます。その後、東京の農業技術研究所に移られ、微量金属元素の研究を開始されましたが、これも、公害が問題になり、水質汚濁防止法が制定される以前の話で、PBMが起る前に問題の所在を見抜かれたものといえます。分析装置も、当時、農学分野においては画期的な発光分光分析装置を導入され、企業サイドと、同じ分析技術水準で対峙されようとした事も、お人柄ゆかと思えます。ちなみに三重大学において先生が導入された原子吸光分析装置は、土壤肥料分野では最初のものでした。

陽春四月、皆様には健康やかな日々をお過ごしのことと存じます。私は昨年10月から生物資源学部長を拝命致しました。ようやく半年を経過したのみで、軌道に乗っていませんが、多忙の日々を送っています。日々処理しなければならぬこと、会議が多いことや最も大切な学部の将来あるべき姿など行動したり、考えたりすることが多く思うようにはなりません。しかし、農芸化学その他の方々からご支援をいただきながら毎日を送っています。会員の皆様からもいろいろな情報をいただきご指導をお願いいたします。大学は今、改革を求められております。一般教育の1年半を廃止し、4年間学部教育をすることや社会人の大学、大学院への入学を促進、社会に開かれた大学づくり等々いくつかの問題が提起され、検討、実施に入っています。このうち4年一貫教育は従来から言われている一般教育の不評や新入生の五月病など

で問題点が多く、この解消のため現在鋭意検討しております。また社会人の大学院への入学は博士前期課程(修士課程)はすでに全国の大学に先駆け平成2年度から、博士後期課程(博士課程)は平成3年度からそれぞれ実施しておりますので、皆様方から入学して下さい。一方、論文提出による博士論文博士

今後共よろしく
高橋孝雄(大6)

の制度もできておりますので考えおき下さい。さらに企業等との共同研究も一層の促進をはかるべく建物や種々の機器を充実しつつありますので活用の程をお願いいたします。大学・学部では農学部75周年が2年後、生物資源学部10周年が3年後、大学50周年が5年後にひかえておりますが、同窓会も農・水が一緒になったこともあり、生物資源学部10周年を農学部75周年も兼ねて行いたいと思っております。その前に校舎が明年3月10日に完成する予定ですので、平成7年度はじめから農芸化学の各研究室は新校舎の6、7階に移ります。新校舎は現在の農学校舎のすぐ海寄りの所です。その他明年1月末には大学として待望の講堂も完成することになっております。この1、2年の間にキャンパスはかなり様変わりすることでしょう。来年の三翠化学会総会は是非大学内でお願したいと思っておりますのでよろしくお願致します。

北岸確三先生 ご近況

北岸確三先生は、大正8年滋賀県にお生まれになり、大学卒業後農林省農事試験場、東北農業試験場、農業技術研究所で研究生活を送られ、昭和39年8月三重大学農学部教授に就任されました。昭和58年4月、停年により退官されるまでの間、土

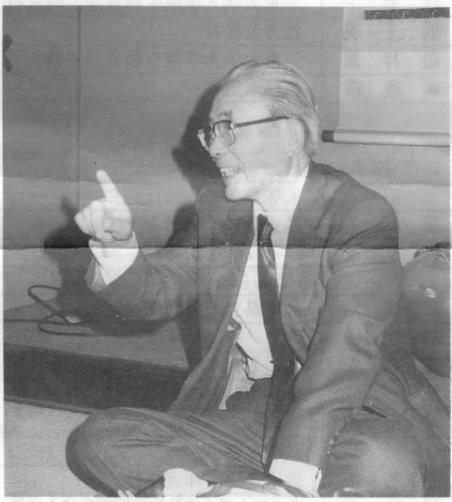
壌を研究対象とされ、牧草の集約栽培について研究をされました。牧草を選ばれた事自体、後の昭和30年代後半からの畜産

F)を測定する装置を考案されました。この装置は現在もメーカーの手で作られ、この分野で広く用いられています。「土壌学」の分野で「土壌物理」が脚光を浴びる10年前でした。その後、東京の農業技術研究所に移られ、微量金属元素の研究を開始されましたが、これも、公害が問題になり、水質汚濁防止法が制定される以前の話で、PBMが起る前に問題の所在を見抜かれたものといえます。分析装置も、当時、農学分野においては画期的な発光分光分析装置を導入され、企業サイドと、同じ分析技術水準で対峙されようとした事も、お人柄ゆかと思えます。ちなみに三重大学において先生が導入された原子吸光分析装置は、土壤肥料分野では最初のものでした。

平成5年12月1日付けで農産物利用学研究室の助手として赴任した勝崎裕隆です。3年と9カ月ぶりに三重大学へ帰ってきたというのが本場のところですが、諸先生方に温かく迎えられることになった訳ですが、もうすぐ新校舎へ引っ越ししてしまつたため、その立ち会いに間に合つて戻ってきませんでした。様々です。時代の変化を目の当たりにするよう大きな時をこの三重大学で過ごすのが光栄であり、また昼夜実験した校舎を後にすることに残念でもあるような気がいたします。

し順調に4年生となり食品化学研究室に配属されました。山田先生の下、日夜遊びと研究に精進し、その後生物資源学研究室の第1回の修了生となり、続いて名古屋大学へ進学しました。名古屋大学ではゴマ種子の配糖体の構造と機能というテーマで

研究をして学位を授与されました。その後三重大学へ赴任ということになり現在にいたつたわけです。研究として今後は、食品成分による、生体調節機能に関する研究を行っていく予定です。何事に関しても経験不足でありませんが、精いっぱい努力していくつもりですので三翠化学会会員の皆様にはよろしくご指導のほどお願いいたします。(勝崎裕隆)



振興を先取りしたものといえますが、火山灰土壌をそれまでの化学的側面から見る事に加え、土壌物理学の面から検討することに着手され土壌水分P

さて、自分のことを少し紹介いたしますと、昭和40年愛知県常滑市で生まれました。その後、イオのブームが到来しような時夜を語り明かした。

北陸での専2クラス会を機に、愛称を仙人会に改称し、毎年、ブロックを替え、幹事を替えてきたが、昨年は11月7日、伊豆の伊東で仙人会の懇親会を開いた。

関東ブロックでは初めてながら、市橋正幸君らの御努力で、各地から14名が参集し、伊豆の泉 グランドホテル 向陽

この機会に、奈良先生叙勲記念祝賀会の模様および、北岸先生のご近況について、寄稿頂きました。

進んでこれたことは、卒業生一同よく存知上げるところです。研究に対する真摯さもよく知られているところですが、研究のアイデアが、常に時代の一步先を歩いていた事はあまり知られていないと思えます。その後、東京の農業技術研究所に移られ、微量金属元素の研究を開始されましたが、これも、公害が問題になり、水質汚濁防止法が制定される以前の話で、PBMが起る前に問題の所在を見抜かれたものといえます。分析装置も、当時、農学分野においては画期的な発光分光分析装置を導入され、企業サイドと、同じ分析技術水準で対峙されようとした事も、お人柄ゆかと思えます。ちなみに三重大学において先生が導入された原子吸光分析装置は、土壤肥料分野では最初のものでした。

陽春四月、皆様には健康やかな日々をお過ごしのことと存じます。私は昨年10月から生物資源学部長を拝命致しました。ようやく半年を経過したのみで、軌道に乗っていませんが、多忙の日々を送っています。日々処理しなければならぬこと、会議が多いことや最も大切な学部の将来あるべき姿など行動したり、考えたりすることが多く思うようにはなりません。しかし、農芸化学その他の方々からご支援をいただきながら毎日を送っています。会員の皆様からもいろいろな情報をいただきご指導をお願いいたします。大学は今、改革を求められております。一般教育の1年半を廃止し、4年間学部教育をすることや社会人の大学、大学院への入学を促進、社会に開かれた大学づくり等々いくつかの問題が提起され、検討、実施に入っています。このうち4年一貫教育は従来から言われている一般教育の不評や新入生の五月病など

で問題点が多く、この解消のため現在鋭意検討しております。また社会人の大学院への入学は博士前期課程(修士課程)はすでに全国の大学に先駆け平成2年度から、博士後期課程(博士課程)は平成3年度からそれぞれ実施しておりますので、皆様方から入学して下さい。一方、論文提出による博士論文博士

今後共よろしく
高橋孝雄(大6)

の制度もできておりますので考えおき下さい。さらに企業等との共同研究も一層の促進をはかるべく建物や種々の機器を充実しつつありますので活用の程をお願いいたします。大学・学部では農学部75周年が2年後、生物資源学部10周年が3年後、大学50周年が5年後にひかえておりますが、同窓会も農・水が一緒になったこともあり、生物資源学部10周年を農学部75周年も兼ねて行いたいと思っております。その前に校舎が明年3月10日に完成する予定ですので、平成7年度はじめから農芸化学の各研究室は新校舎の6、7階に移ります。新校舎は現在の農学校舎のすぐ海寄りの所です。その他明年1月末には大学として待望の講堂も完成することになっております。この1、2年の間にキャンパスはかなり様変わりすることでしょう。来年の三翠化学会総会は是非大学内でお願したいと思っておりますのでよろしくお願致します。

日時: 9月18日(日)・19日(月)
場所: 三重大学孤野町湯の山温泉
泉 グランドホテル 向陽
ことしは、三重県の当番。
(専2 中川潔彦記)

今春 卒業生・修了生の就職・進学状況

石垣保志	国家公務員
伊藤伸一	名古屋大学大学院農学研究科
伊藤藤弥	サンミート株式会社
伊藤川裕	三重大学大学院生物資源学研究所
宇佐美真純	豊通エンジニアリング株式会社
内田俊也	旭電化工業株式会社
大島信子	三重大学大学院生物資源学研究所
大宮博子	三重大学大学院生物資源学研究所
緒方進	三重大学大学院生物資源学研究所
鎌倉昌樹	京都大学大学院農学研究科
河合尚利	村上技研株式会社
日下良浩	三重大学大学院生物資源学研究所
小林崇	自衛隊
小田淳	三重大学大学院生物資源学研究所
佐野秀人	三重大学大学院生物資源学研究所
杉井志徳	菱山製菓株式会社
杉浦和彦	三重大学大学院生物資源学研究所
杉本真弘	三重大学大学院生物資源学研究所
鈴木亮子	三重大学大学院生物資源学研究所
時崎通彦	株式会社紀伊國屋書店
徳永勝彦	名古屋大学大学院農学研究科
中尾英和	京都大学化学研究所研究生
中西昌広	三重大学大学院生物資源学研究所
野上正弘	三重大学大学院生物資源学研究所
野村周平	三重大学大学院生物資源学研究所
野村俊和	三重大学大学院生物資源学研究所
橋本敦	三重大学大学院生物資源学研究所
福本貴子	ケンコーマヨネーズ株式会社
藤枝方子	三重大学大学院生物資源学研究所
松島和佳子	株式会社ポッカコーポレーション
村井努	敷島製パン株式会社
村田圭一郎	三重大学大学院生物資源学研究所
村林純子	三菱油化ビーシーエル株式会社
森本兼司	三重大学大学院生物資源学研究所
矢田純子	敷島スターチ株式会社
吉原恭子	三重大学大学院生物資源学研究所
若菜友美	地方公務員
渡辺祥規	三重大学大学院生物資源学研究所
佐藤康彦	進路未定

修了課程 修了生	
秋元政人	大塚製菓株式会社
伊藤友美	株式会社イチビキ
右京政補	三重大学生物資源学部研究生
王偉	帰国(上海市)
貝谷康治	兵庫県立高校講師
川島圭子	テクノ中部株式会社
河野昭宏	味の素ゼネラルフード株式会社
菊地寛	オフテックス株式会社
酒井浩司	敷島スターチ株式会社
佐合美紀	進路未定
塩原智子	御木本製菓株式会社
武村政春	名古屋大学大学院医学研究科博士課程
チッタソフ・アマナト	三重大学大学院博士後期課程
西田勇	サッポロビール株式会社
西辻耕治	タマノイ酢株式会社
早野寛仁	日本合成化学工業株式会社
福原美奈	日本商事株式会社
彭徳子	進路未定
水口百代	地方公務員
南谷吉彦	三好化成株式会社
宮城智子	三重大学大学院博士後期課程
毛受信雄	日本臓器製薬株式会社
モハドマイル・アサン	三重大学大学院博士後期課程
藪野佳寿郎	地方公務員
齋侑	株式会社天野製作所

博士課程 修了生	
小瀬古茂樹	サンジシ醸造株式会社

三翠化学の同窓生の皆さん。お元気ですか。世界中で、また大学の内外でいろいろなことが起った平成5年度もなんとか終わり、キャンパスや職場ではつぎの新生を迎える準備にお忙しいことでしょう。

平成の不景気が吹き荒れた今年度です。先週お伝えした今年度の現況をお伝えすることに致します。40名の2年生、41名の4年生、19名の修士

無試験で大企業に入った先輩達?とは異なり、本年度は、何れも何れも企業を訪問し、試験を受け、また3次、4次の面接を受けた人もかなりいました。コースでは2月から就職活動をしたのですが、先輩のいる、また、農芸化学に馴染みの深い会社は、どこも何十人、何百人という志願者の数でしたので、「のんき」に構えていた人、試験に弱い人は大変でした。面接

先輩の方には、出来るだけ早く情報を母校に流して頂くようにお願い致したいと思っております。勿論母校の学生・教員は、ぬるま湯の上浜温泉」と言われぬよう日頃からがんばりたいものです。

今年度の卒業生のなかで、特筆すべきは、博士課程修了者です。コースではじめての課程博士(生物機能応用科学専攻)を世の中に送り出すことが出来ま

最後にコースの現況です。5年度は、10月から6年度9月までは、勝崎先生が11月に着任され、大伏先生が千葉大学へ転出されました(3月)。高橋教授が学部長に就任され(10月)、梅林教授は、10月から6年度9月まででチェンマイ大学へ、また西川助教授がテキサスから帰任(11月)されました。嶋田協先生に

平成5年度の農芸化学コースを顧みて

平成5年度農芸化学コース主任

柏村直樹

1年生、2人の博士1年生を4月に迎えた農芸化学コースは、大講義室での「新歓コンパ」で5年度の幕あけとなりました。早速4年生と27人の修士2年生さらには6人の博士3年生は、なかでは卒業実験、外では就職活動に苦しみことになりました。苦ければ楽ありとはなかなかいかず、多くの諸君が教官とも共就職進学に年度末まで奮闘いたしました。先輩が引いてくれ

接は、「慣れと心構え」で随分結果が違います。先輩があとかから母校に「ちょっとおとなしかった、英語がすこし悪かった」と報告するのはいつらのもので、昔から競争の激しい就職試験は、面接や学試試験のりハハサルをよくしたものです。また、日常の語学の鍛錬、企業セミナーの参加や資料請求は、国立理系の学生といえどもは積極的に行う必要があると思われま

した。あとにつく諸君のよい刺激となり、また論文博士の道を開くことが可能となりました。博士課程の社会人学生諸君は、企業や家庭の理解と週末や夜に実験をするフアイトが要求されますが、学位記が実際に役立つ社会環境もかなり整ってきると言えます。今年度の修士課程の2年生は、留学生も多く、また他大学や本学博士課程への進学が多かったことも特徴

備に関してはあまり不平も言えなくなりそうです。若い研究者や院生が機器に頼らず、数にたよらず、そして教官にたよらずにフロンティアを切り開いていってほしいものです。

最後になりましたが、卒業生、先輩のかたの益々のご活躍を祈り、また、併せて来年度に卒業する本コースの学生へのご支援をお願い申し上げます。(平成6年3月14日 記)

大5クラス会

「人生の節目に旧交を暖めつつ」



化大5回生 懇親会 志摩町和具にて

昨秋11月、人生の節目の時期を機に大学5回のクラス会を志摩町和具で実施しました。還暦を前に、定年での人生を振り返る人、これから定年を迎える人などゾーンの節目です。出席者は11名、クラスの卒業生が28名、物故者3名、消息不明2名です。まずまずの出席率でした。

4年ぶりの会でしたので内容は充実。22日、浜島CCでゴルフ(2組)を楽しみ、夕刻からメインの懇親会となりました。ヒゲを振り立てる伊勢海老などの舟盛り、の活き造り、お膳の上も海の幸一杯で大いに飲みかた食べながら運々まで話に花を咲かせた。夫婦で初めてゆつくりと海外旅行をしたこと、再就職のためのビジネススクールでの研修のこと、新たな趣味を始めたことなど、夫々人生を生き活きたり、お互いに良い刺激にな

前号の訂正とお詫び

三翠化学三号第4面掲載の「秋の花」(西山正之氏御寄稿)の①ヒオウギをホトギスに訂正させていただきます。

出席者、菅田・岡田・岡出・加藤・神原・刀根・水谷・山口・山田・植松・森田

植松・森田

この旨きフォンデュのチーズを誇らかにアッペンツェルとウエートレス答ふ

二度搾りのチーズまで民より召し上げし王住みしとふシャトーを巡る

敷煉瓦の隙にスズメノカタビラ生ふレウワルデンの露地の静けし

レウワルデンのひそけき露地の暮れなづみハタザオは長き穂影を落す

花薫る菩提樹の下に憩ふとき、はうす暗き冬の日を言ふ

実のつき、枇杷と泰山木の花を見つるガノの湖に下りゆくとき、来し時に花薫りし菩提樹の垂るる実仰ぐ旅の終に

菩提樹

佐々木敏雄

一面に霧立ちこむ窓に向ひ登れざる山を思ひパン食む

線路渡る若牛に向ひ待たされし電車のかなの吾等手を振る

草原を登りゆくスイスプラウン牛のさすがに強き肢骨を見つ

馴染み深き草ぐさ繁りて親しかり言葉通はぬ國の牧場に

刈取りし区液肥を撒きし区牛食む区それぞれの色に整ひと見ゆ

日本の棚田の如く美しく急勾配に草地整ふ

アメリカ産ジャポニカ米がベルギーに住まひてよりか体小

黒鷲の目に目覚めて窓に仰ぐ暗れてゐるのか判らぬ空を

暮れ遅き夕べの街にビール飲むマロニエの青き実を仰ぎつつ

菩提樹の花がほりリポブラの祭とべる修道院の庭に妻と想ひぬ

ゆきずりの日本人にシャッターたのみ愛の湖を背に妻と並びぬ

レマン湖に沿ひて走れる列車の左列に作れる葡萄畑続く

湖の上にいるむ空気の青色を表はさむ術思ひ見つけぬ

川に沿ひ戻りきて立つ菩提樹の薫れるところ往きにも立ちし

北海道の花に等しと妻に教ふブルジョアに咲くハマナスを

掌言ひゆく

空模様未だ分たぬ朝まだき牛は草食むベルとよもせて

明けそめし窓にベルナー三山の現るるを待つ眼こらして

ユングフラウを諦め宿に籠りぬて日本と異なる雨音を聞く